

Glocal Tenri



2

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.17 No.2 February 2016

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
泥海とミッション
／深谷忠一..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (101)
北野文書③「おさしづ」の写し翻刻
／安井幹夫..... 2
- ・ 『教祖伝』探究 (20)
—閑話—「たね」と「心」について
／深谷忠一..... 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」
的世界観への未来像～ (22)
第3章 和辻哲郎—日本語と哲学の
問題③
／井上昭夫..... 4
- ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (10)
「しゃち」と「しゃちほこ」について①
／佐藤孝則..... 5
- ・ 「おふでさき」の標石的用法 (6)
「ことわり」について
／深谷耕治..... 6
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (12)
第1巻の「刻限」における「道」
／澤井治郎..... 7
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (34)
救済の多様性 天理教④
／山田政信..... 8
- ・ 地域福祉を拓く —新たな寄付文化の創
造— (14)
ファンドレイジングの手法としての街頭
募金②
／渡辺一城..... 9
- ・ 遺跡からのメッセージ (8)
イギリス滞在記④ ドラゴンが寓意す
るもの
／桑原久男..... 10
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッ
パ関係試論 (6)
大西洋奴隷貿易とコンゴ王国
／森 洋明..... 11
- ・ ヴァチカン便り (18)
臨時の聖年開幕
／山口英雄..... 12
- ・ 2015 年度公開教学講座要旨 (4)
天理教と現代社会の生死観：病い
／澤井義次..... 13
- ・ English Summary..... 14
- ・ おやさと研究所ニュース..... 15
第 287 回研究報告会 (山中秀夫) / 「宗
教と社会貢献」研究会で書評コメント (金
子 昭) / 「現代における宗教の役割研
究会 (コルモス)」に参加 (堀内みどり)
／平成 27 年度公開教学講座のご案内 /
「教学と現代」のご案内

巻頭言

泥海とミッション

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

東京・八重洲に本社がある会社に勤務する知人の青年がいます。

彼の会社は、そのミッションに、

「私たちは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現を目指す」ということを掲げ、そのウェイ（大切に
する考え方）として、

*新しい価値の創造

「私たちは、絶えず変化する時代を先取りして、果敢に挑戦していくことで、新しい価値を生み出し、社会からの大きな期待に応える」

*社会への貢献

「私たちは、持続可能な豊かな世界を目指し、全ての企業活動を通じて、社会に貢献する」

*個の尊重

「私たちは、個人の存在を尊重する。従業員一人ひとりの意志と可能性に期待し、お互いに尊重し合い、その持てるエネルギーが最大限発揮されるように支援する」

ということを挙げています。

この会社・グループのビジネスの領域は、就職／進学・スクール／住宅／旅行／自動車／プライダグ／グルメ・美容／介護／ライフスタイルという広範囲なもので、現在ではグループ企業 162 社、総従業員数 31,841 人。世界 16 の地域に 900 の拠点を持っています。

そして、この会社での彼の仕事は、世界中から未来のビジネスの種を探してくること。会社から派遣されて、欧米やアジアの有名大学に短期研修・社会人留学に出かけ

て、世界の最先端の動きを学ぶ。その中から 10～20 年後の会社のビジネスモデルを模索する、というものでした。

「それで何か見つかったの？」との筆者の問いに、「たとえ僅かでも「かたち」が見えていれば、どこの企業もすでに知っています。見えてからでは遅いので、僕は今、会社に「泥海」を作ろうと思っているのです」との彼の答え。

「元の理」に出てくる「泥海」のように、「かたち」は未だ具体的には見えていないけれども、原質料・材料はその中に存在する状態を社内につくる。それが、今の会社が 10～20 年後にまで生き残るために重要だと言うのです。

社員に、各々が誇りを持って取り組めるミッションとそれを実現する具体的なウェイを明示する。そして、さらに未来の可能性を引き出せる質料・材料を大量に含有する泥海を持つとうとしている会社。このような会社が、今後も日本・世界のリーディングカンパニーとして存続していくのでしょうか。

「でも、結局は人間じゃないの？ 泥海から何かを見いだせる力を持った……」との筆者の問いに「そうなのです。スタンフォード大学の研修でも、『ヒューマン・ウォッチング』という、一日中サンフランシスコの街中に佇んで通行人を眺めているプログラムがありました」との答え。

現在なすべきミッションの明確化とあるべき未来を開拓する人間力の涵養。世界の先案内人たるべき立場の我々も、今、最優先で取り組むべき課題だと思う次第です。